

吉野町まち・ひと・しごと創生

総 合 戦 略

(素 案)



平成 2 7 年 1 0 月

吉野町

平成 27 年 10 月 7 日

〔このページは余白です。〕

吉野町まち・ひと・しごと創生総合戦略

目 次

1. 総合戦略の位置づけと地方創生に向けた基本方針	1
(1) 総合戦略の位置づけ	1
(2) 地方創生に向けた基本方針	2
(3) 総合戦略の計画期間	4
2. 総合戦略の効果的な推進	4
(1) 総合戦略の策定に当たっての視点	4
(2) 進捗管理	5
3. 基本目標と基本的方向、具体的な施策	6
基本目標① 地域経済を活性化し、安定した雇用を創出する	7
(1) 基本目標	7
(2) 講ずべき施策の基本方針	7
(3) 重要業績成果指標（K P I）と主な取り組み	8
基本目標② 新しいひとの流れをつくる	11
(1) 基本目標	11
(2) 講ずべき施策の基本方針	11
(3) 重要業績成果指標（K P I）と主な取り組み	12
基本目標③ 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる	14
(1) 基本目標	14
(2) 講ずべき施策の基本方針	14
(3) 重要業績成果指標（K P I）と主な取り組み	14
基本目標④ 地域のなかで安心して暮らし続けることができるまちづくり	16
(1) 基本目標	16
(2) 講ずべき施策の基本方針	16
(3) 重要業績成果指標（K P I）と主な取り組み	17

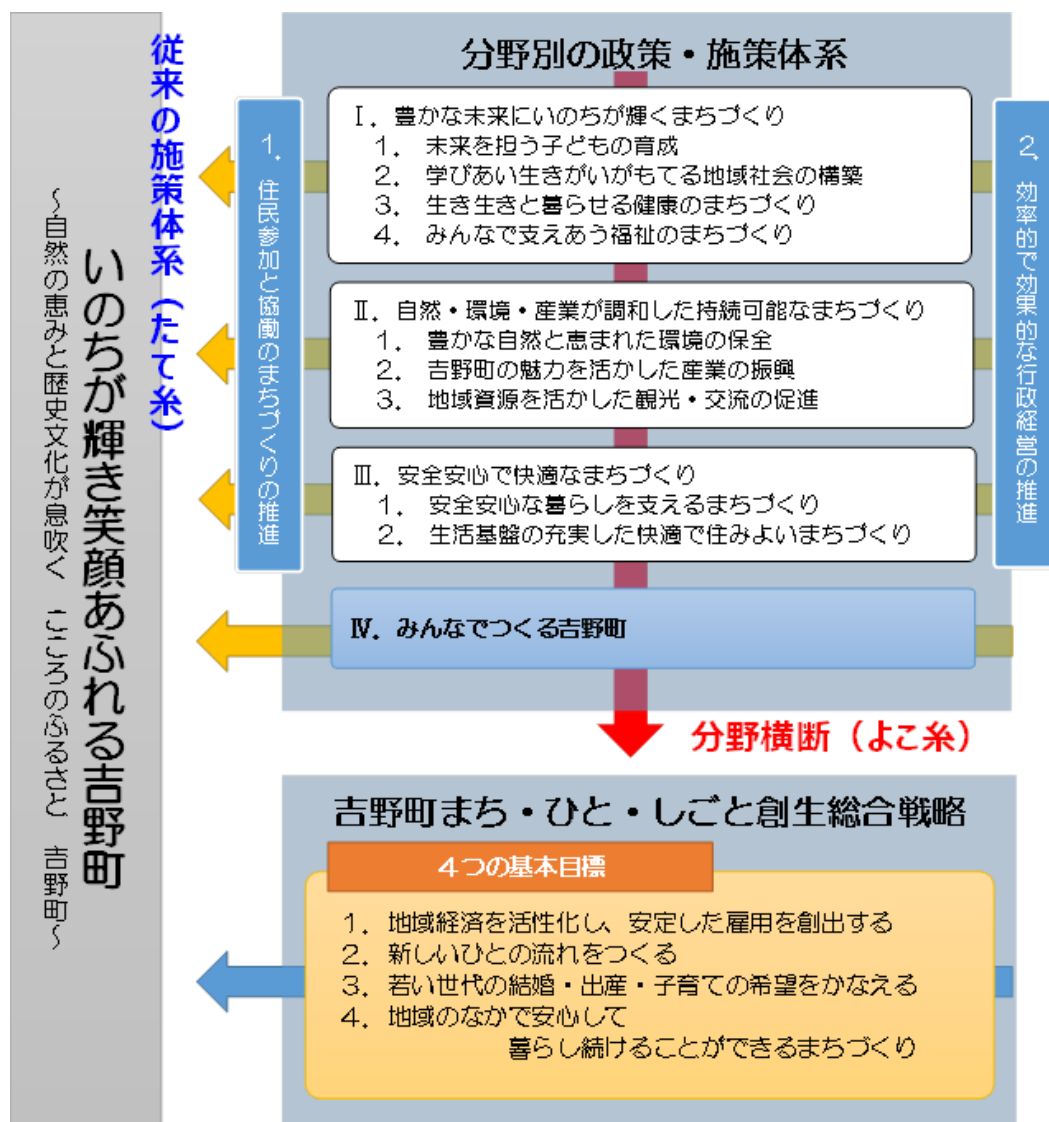
1. 総合戦略の位置づけと地方創生に向けた基本方針

(1) 総合戦略の位置づけ

総合戦略は、第4次吉野町総合計画に掲げた将来像「いのちが輝き笑顔あふれる吉野町～自然の恵みと歴史文化が息吹くこころのふるさと吉野町～」の実現を目指していくことを基本としています。国の戦略における4つの基本目標に重点をおき、「**憧れ**」と「**安らぎ**」そして自然と一体化するわがまち「**吉野**」が、将来にわたって活力ある地域の進展を目指し、町民の潤いと笑顔、感動と感謝の豊かな生活を安全安心に営むことができる地域社会の形成、地域社会を担う人財の養成及び魅力ある多様な就業の創出を一体的に推進するための具体的な施策をまとめたものです。

後期基本計画の中では、施策を横断して特に重点的に取り組む事項として位置づけます。

●第4次吉野町総合計画と地方創生総合戦略のイメージ



(2) 地方創生に向けた基本方針

高齢者が多く、若い世代が著しく少ないという吉野町の人口ピラミッドの構成を考えると、この構造を大きく変えるには、相当長い期間を要することから、今後も人口減少は避けがたいものとなっています。

こうした状況下において、人口減少による負の連鎖を断ち切るため、国が策定した「まち・ひと・しごと創生総合戦略」の基本的な考え方や政策5原則等を基本とし、吉野ならではの地方創生として、人口減少と地域経済縮小の克服、まち・ひと・しごとの創生と好循環の確立を町民一体となり、まちの全体最適化を目指します。

●国の「まち・ひと・しごと創生総合戦略」の基本的な考え方と政策5原則抜粋

1. 「まち・ひと・しごと創生総合戦略」の基本的な考え方

① 人口減少と地域経済縮小の克服

- ・「東京一極集中」を是正する。
- ・若い世代の就労・結婚・子育ての希望を実現する。
- ・地域の特性に即して地域課題を解決する。

② まち・ひと・しごとの創生と好循環の確立

- ・地域経済の活性化、産業の付加価値等による 『まちの創生』
- ・地方就労の促進や移住定住促進等による 『ひとの創生』
- ・安心できるくらしの確保や都市のコンパクト化、広域連携等による 『しごとの創生』

2. 「まち・ひと・しごと創生」政策5原則

①『自立性』

各施策、構造的な問題に対処し、地方公共団体等の自立につながるものにする。

②『将来性』

地方が自立的かつ主体的に、前向きに取り組むことを支援する施策に重点を置く。

③『地域性』

国による画一的手法や「縦割り」的な支援ではなく、各地域の実態に合った施策を支援する。

④『直接性』

限られた財源や時間の中で、最大限の成果を上げるため、ひとの移転・しごとの創出やまちづくりを直接的に支援する施策を集中的に実施する。

⑤『結果重視』

効果検証の仕組みを伴わないバラマキ型の施策は採用せず、明確なPDCAメカニズムの下に、短期・中期の具体的な数値目標を設定し、政策効果を客観的な指標により検証し、必要な改善等を行う。

また、地方創生には、まちの主産業を十分調査分析のうえ、着実に連携強化し、関連する産業の起業創業の意欲を高め、ストーリー性とこだわり、地域間の産業連携の推進や、地域人財の養成と定着が重要と考えます。それを支えるのはすべて「ひと」であり、「ひとの創生」こそが地方創生の基礎だと考えます。

地域内外の有用な人財を積極的に確保・養成し、その「ひと」と「ひと」とが連携することにより、新たな雇用「しごと」をつくり、「まち」に活力を作り出す好循環により、町民一人ひとりが輝き笑顔あふれる吉野町の実現を目指します。

単に「人口」だけを問題視するのではなく「ひとづくり」を全てに共通する視点に据え、吉野の強みと魅力^①を徹底的に活かした吉野のライフスタイル、人と人との絆や心の豊かさ、これまで受け継がれてきた吉野の歴史、伝統文化、自然環境を次の世代に引き継ぎ、日本のこころのふるさと聖なる吉野^②を求めて吉野を訪れる人々を温かくおもてなす心豊かな生き方・暮らし方を重視する地方創生を目指します。

「まち」の創生

- ・地域の絆の中で心豊かに生活でき、子どもを産み育てられる安全かつ安心して暮らすことができるまちづくり
- ・町民、議会、行政がそれぞれの役割を担いながら連携し、協働して、公正で開かれた町民主体のまちづくり
- ・先人が築き、継承してきた歴史、文化及び自然環境を次世代に引き継ぎ、世界遺産を活かしたまちづくり

「ひと」の創生

- ・地域人財の養成と定着
- ・地域内外の有用な人財の確保
- ・移住定住の促進（若年層の人口流出の歯止め、若年層・壮年層を中心とした人口流入の促進）

「しごと」の創生

- ・基幹産業の強化によるしごとの創生
- ・地域資源の発掘・研ぎによる新たなしごとの創生
- ・地場産業の担い手確保と地域人財の養成
- ・地場産業の関連する起業・創業によるしごとの創生

「愛着心」の創生

- ・未来を担う子どもたちを地域が一体となって愛着心を持つよう育むひとづくり
- ・吉野の歴史、伝統文化・産業、自然環境を次の世代に引き継ぐ愛着心の醸成
- ・五感六育の推進

(3) 総合戦略の計画期間

平成 27 年度から平成 31 年度までの 5 年間とします。

2. 総合戦略の効果的な推進

(1) 総合戦略の策定・推進にあたっての視点

◆総合戦略の策定に当たっての視点

①全体最適の思考によるまちづくり

一部の地域の一部の人の関わりによる部分個別最適でなく、より多くの人が関わり地域全体に派生する全体最適の思考によるまちづくりを行います。

②説得でなく、納得・理解、「広聴」重視の計画づくり

総合戦略の策定（地域の活性化）にあたっては、行政主体で策定（実施）するのではなく、「産官学金労言」の連携強化が極めて重要です。まちの各種情報を共有し、一体感を持って活性化施策を構想します。

③成果（アウトカム）を重視した数値目標の設定

総合戦略を着実に推進するためには、PDCAサイクルを構築し、高い実効性を確保する必要があります。

戦略に盛り込む政策分野ごとに基本目標を設定するとともに、具体的な施策については客観的な重要業績評価指標（KPI）を設定し、目標を明確化することで、町全体での目標の共有化と成果を重視した取組の展開を実施します。

◆総合戦略の推進に当たっての視点

④官民協働、国・県・他町村との連携強調により取り組みを進めます。

成果をより大きなもの、より広がりのあるものとするため、官民協働を基本に取り組みを進めます。そのため、町民の皆様や事業者の方々に本町の現状や目指すべき方向、目標などをしっかりと説明し、共有を図ります。

国との連携

国の制度や有利な財源、地方経済分析システム等、国の財政支援、人的支援、情報支援を最大限に活用します。

県との連携

地方創生に向け、町の総合戦略と県の総合戦略は、両輪となる必要があります。

「県・市町村地方創生連携会議」により、情報交換・共有を行い連携協調を図ります。

他町村との連携

周辺市町村との連携を一層深め、広域連携プロジェクトの企画・推進を行います。

⑤県外とのネットワークの絆を広げ、多くの人財や知恵、資本を呼び込みます。

人口減少という困難な課題を克服するためには、官民協働、県との連携協調によって移住の促進、地場産業関連企業の誘致など様々な分野において、対外的な連携を図っていくことが重要です。

本町の現状や目指すべき方向などを積極的に発信し、県外とのネットワークの絆を広げ、県外から多くの人財や知恵、資本の呼び込みを図ります。

(2) 進捗管理

施策効果の検証と改善については、平成 23 年度より取り組んでいる事務事業・施策評価制度並びに「吉野町まち・ひと・しごと創生推進会議」により、点検・検証し、必要な対策の追加、見直しを行います。



3. 基本目標と基本方針、主要な取り組み

国：地方における安定した雇用を創出する

① 地域経済を活性化し、安定した雇用を創出する

- ①基幹産業の強化による地域経済の活性化
- ②地域資源の発掘・研ぎによる地域経済の活性化
- ③地域産業の担い手確保と地域人財の養成
- ④地場産業関連産業の起業・創業支援による地域経済の発展

国：地方への新しいひとの流れをつくる

② 新しいひとの流れをつくる

- ①定住・移住の促進
- ②企業等における採用・就労の拡大
- ③地域おこし協力隊制度の活用

国：若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる

③ 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる

- ①安心して子育てできる環境整備
- ②結婚・出産・子育て支援
- ③子育てと仕事の両立支援

国：時代に合った地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する

④ 地域のなかで安心して暮らし 続けることができるまちづくり

- ①みんなで支え合い安心して暮らせる地域社会の形成
- ②いきいきと暮らすことができる健康長寿社会の形成
- ③地域における女性の活躍推進
- ④郷土愛・愛着心の醸成

基本目標① 地域経済を活性化し、安定した雇用を創出する

(1) 基本目標

「産官学金労言」による連携体制の構築を基本とし、産業・歴史・文化を掘り起し、研ぎをかけ、世界に発信する魅力ある地場産業づくりに取り組むとともに、地場産業関連の起業創業の意欲を高め地域人財養成と人財招致により、安定した雇用を創出するとともに、若者が働きたいと感じる職場環境の創出を図ります。

5年後の目標	基準値				目標値(H31)	
	年度	数 値	単位	算出・引用	数 値	単位
木材・木製品出荷額	26	1,002,812	千円	製材工業協同組合	2,000,000	千円
原木生産額						
小売業年間商品販売高	19	508,088	千円	商業統計	510,000	千円
農産物販売金額	22	29,175	万円	農林業センサス		万円
観光客入込数	26	1,145	千人		1,500	千人
宿泊者数	26					

(2) 講ずべき施策の基本方針

2018冬季オリンピック（韓国：平昌(ピョンチャン)）、2019ラグビーワールドカップ（日本）、2020オリンピック（日本：東京）、2021ワールドマスタースゲームズ（日本：関西）が日本並びに近隣国で開催され、海外からたくさんのお客様が日本を訪れます。

吉野の歴史、伝統文化、自然環境、産業を世界へ向け発信する絶好のチャンスと強く受け止め、町民・企業等が積極的に関われる各施策を展開し、地域経済の活性化と安定した雇用創出を目指します。

①基幹産業の強化による地域経済の活性化

〔木材関連産業〕

吉野林業の特殊性・引き継がれてきた技術・ストーリーなど、日本三大人工美林と称される吉野杉・桧の魅力をより多くの人に知ってもらい、木のある暮らしの提案とともに、間伐の必要性や森林資源を有効活用するエコ志向の割り箸等の価値を積極的PRしていくとともに、国内外にとどまらず世界の市場に対して流通を拡大することで、町内経済が潤い、十分な雇用の確保を図ります。

木
貯木
製材所

〔観光関連産業〕

地場産業の調査分析のうえ事業構想を行い、観光による経済波及効果が全地域に及ぶよう、地域が一体となった広域連携による戦略的な観光地づくりを進めます。また、外国人観光客が増加傾向にあることを受け、対応が遅れている国際観光の抜本強化を図り、吉野を訪れる観光客を温かく迎えるおもてなしの心の醸成、体験、地域の魅力発信ツールの制作、販売促進及び人財育成を行います。

〔農業関連産業〕

地域の気候、風土を活かした新たな農産物の導入促進や6次産業化を推進するとともに、JA、ならこーぷとの連携による農産物の販路拡大を図ります。

また、農業の担い手の確保とともに、経営規模拡大や組織化により経営力の強化を図ります。



②地域資源の発掘・研ぎによる地域経済の活性化

吉野には先人より受け継がれてきた、ものづくりや歴史、文化、自然環境が数多く存在します。今なお眠れるまちの地域資源を自ら知り気づき、それらを融合・ネットワーク化することにより新たなビジネスモデルを構築し、交流人口の増加、地域経済の活性化を図ります。

③地域産業の担い手確保と地域人財の養成

地域産業の活性化を図るには、事業の中核となる人財を育成・確保することが、極めて重要です。地域における産業のニーズにあった人財の育成・確保（職業能力の開発等）と移住促進における人財招致の取り組みとを連動させることで、更なる人財確保を図ります。

④地場産業関連産業の起業・創業支援による地域経済の発展

将来の本町の産業を担う創業者を支援することにより、商工・農林・観光・**建築・土木**・町民公益活動分野などにおいて、社会情勢の変化や消費者のニーズに対応した新しい事業展開を促進します。また、創業や就業のための地場産業関連企業や人財の招致を展開します。

（３）重要業績成果指標（K P I）と主要な取り組み

①基幹産業の強化による地域経済の活性化

重要業績評価指標	基準値				目標値(H31)	
	年度	数 値	単位	算出・引用	数 値	単位
林道・作業道の路網密度	26	11.2	m/ha	森林組合調査	12.0	m/ha
間伐の実施	27	392	ha	特定間伐等促進計画	1,200	ha
森林集約化面積	26	3,751	ha	町調べ	4,500	ha
木材・木製品出荷額	26	1,002,812	千円	製材工業協同組合	2,000,000	千円
割り箸生産量（杉）	26	14,750,000	膳	箸組合調査		膳
割り箸生産量（桧）	26	210,000,000	膳	箸組合調査		膳
新規農林漁業物産導入事業者数	27	5	事業者	認定農業者	8	事業者
農林産物被害面積	27	432	ha	認定農業者	302	ha
農用地耕作利用率	27	88	%	農業振興地域整備計画	91	%
外国人宿泊者数	26	1,000	人		1,300	人

主 要 な 取 り 組 み

〔木材関連産業〕

○森林の基盤整備、集約化施業を推進すると共に、搬出コスト低減への支援を行います。

○未利用間伐材等の収集によるエネルギー利用を推進します。

○木材需要の拡大を推進します。

- ・吉野材の魅力、良さなどのPR促進。
- ・公共施設等での町産木材利用促進。
- ・吉野材を使用した住宅の建設促進。
- ・生産、加工、設計、施工者の連携強化。
- ・海外への吉野材の良さなどのPR促進と販路拡大。

○吉野の地域資源を組み合わせ新しい吉野の住環境をパッケージ化し、自然と調和した、体にも優しい吉野材の活用促進を行います。

○製箸原材料の流通を確保し、生産機械設備の維持更新に向けたハード、ソフト両面の支援策を強化します。

○子どもから大人まで木とふれあい、木に学び、木と生きる「木育・遊育」を推進します。

〔観光関連産業〕

○地域が一体となった戦略的な観光地づくりを推進します。

○広域観光を推進します。

○おもてなしの心の醸成と、外国人観光客受け入れ体制を強化します。

○世界遺産を活かした効果的な観光PRを推進します。

〔農業関連産業〕

○経営規模の拡大や組織化・法人化への支援を行います。

○生産意欲の向上に繋がる施策を推進します。

○新たな農産物の導入促進や、これまでの技術を礎とした良質な産品を新たに生み出す取り組みを行うとともに、販路拡大を図ります。

○耕作放棄地の解消を図るとともに、鳥獣害被害から農産物を守る対策を強化します。



②地域資源の発掘・研ぎによる地域経済の活性化

重要業績評価指標	基準値				目標値(H31)	
	年度	数 値	単位	算出・引用	数 値	単位
「国栖の里」入込客数						
新商品開発数						
森林セラピー利用者数	26	690	人	ビューロー調査	2,000	人
地域ブランド調査魅力度全国ランキング	27	100位以下	位		50位以内	位

主要な取り組み

○「国栖の里」の紙漉などの伝統産業や製箸・木工をはじめとした地場産業、歴史・文化、自然に研ぎをかけ地域の活性化を図ります。

○学生によるプロジェクトチームを立ち上げ、吉野の素材を使った新しい土産物の開発・販売や吉野を全国にPRする取り組みを進めます。

○森林セラピーを活用し、地域経済の活性化を図ります。

○新たな観光資源の開発により観光力の強化を図ります。

○吉野の自然を生かしたビジネスモデルを構築します。

○事業・雇用拡大につながる知識等を取得する研修会やセ



③地域産業の担い手確保と地域人財の養成

重要業績評価指標	基準値				目標値(H31)	
	年度	数 値	単位	算出・引用	数 値	単位
従業者数(製造・商業・観光・工業)	26	657	人	商工会労働保険労働者数	664	人
従業者数(建設・建築)	26	54	人	商工会労働保険労働者数	55	人
従業者数(現場外、農業)	26	26	人	商工会労働保険労働者数	27	人
従業者数(林業)	26	73	人	商工会・森林労働保険労働者数	74	人
従業者数(割り箸製造)	26	99	人	箸組合調査		人

主要な取り組み

- 吉野高校、東京農業大学等との連携を強化し、将来の吉野の産業を支える人財を育成します。
- 吉野高校を核とし、吉野の伝統産業(紙漉職人・製材職人・森林技師・樽職人・大工職人)の職人養成専科コースを設けるなど、後継者の育成を図ります。
- 雇用環境の改善等に向けた取組を進めるとともに、町内企業を周知・PRすることにより町内への就職を促進します。
- 事業・雇用拡大につながる知識等を取得する研修会やセミナー等を開催すると共に専門家を派遣します。
- 地域の人財ニーズ等を踏まえた地域求職者のスキルアップ研修や吉野の職場体験等を開催します。
- 円滑な事業継承や後継者の育成・養成についての支援を行います。



④地場産業関連産業の起業・創業支援による地域経済の発展

重要業績評価指標	基準値				目標値(H31)	
	年度	数 値	単位	算出・引用	数 値	単位
新規創業者件数	27	0	件	創業支援事業計画	累計	2 件
新分野進出等による雇用者数	26	0	人	3件×2人	累計	6 人
利活用空き店舗数	26	0	件	1件/年	累計	5 件
企業誘致件数	26	累計	3 件	1件/年	累計	8 件

主要な取り組み

- 新規起業家、既存企業等の新分野進出・新商品開発・販路開拓への支援を行います。
- 移住促進と連携し、空き店舗を活用した新規出店やチャレンジショップ等の運営を支援します。
- 地場産業関連の企業誘致を行うとともに、人財の招致を行います。
- 起業・創業支援のワンストップ窓口を開設します。
- 吉野高校の空き校舎への国・県の機関(森林・木材関連)の移転を要望し、地域経済の発展を図ります。

基本目標② 新しい人の流れをつくる

(1) 基本目標

「安定した雇用の確保と子育てとの両立」「安心して子どもを生み・育てることのできる環境整備」「誰もが安全・安心に暮らし続けることができるまちづくり」の各施策を実現するとともに、都市部の方に向けて、吉野の良さ・魅力・吉野スタイルを知って好きになってもらう情報発信を行い吉野への新しい人の流れをつくります。また、世界遺産に登録されている吉野山などの地域資源を活用し、一年を通じて魅力ある観光地づくりを行い、交流人口の増加に繋げていきます。

5年後の目標	基準値				目標値(H31)	
	年度	数 値	単位	算出・引用	数 値	単位
人口の社会減少を抑制する	26	△ 139	人	住民基本台帳	△90以内	人

(2) 講ずべき施策の基本方針

①定住・移住の促進

吉野の知名度、豊かな自然、きれいな空気・水、地域のあたたかい絆、ゆったりとした時間の流れ、治安の良さなど、吉野の強みを最大限に活かした吉野の暮らしの情報発信を行うとともに、定住・移住・交流ワンストップ相談窓口の整備、空き屋バンクの充実、住宅の整備など、吉野での暮らしを希望する全ての人を受け入れる体制を整備します。



②若い世代の転出の抑制・歯止め

人口ビジョンが示すとおり、若い世代の転出超過が際だっており、吉野町の人口対策を考える上で看過できるものではありません。進学・就職を機に町外へ転出した若い世代を呼び戻す施策展開が極めて重要です。

「安定した雇用の確保と子育てとの両立」「安心して子どもを生み・育てることのできる環境整備」「誰もが安全・安心に暮らし続けることができるまちづくり」の取り組みを実現し、若い世代の転出超過の抑制します。

③企業等における採用・就労の拡大【基本目標①の再掲載】

「産官学金労言」による連携体制の構築を基本とし、産業・歴史・文化を掘り起し、研ぎをかけ、世界に発信する魅力ある地場産業づくりに取り組むとともに、地場産業関連の起業創業の意欲を高め地域人材養成と人材招致により、安定した雇用を創出するとともに、若者が働きたいと感じる職場環境の創出を図ります。

④交流人口の拡大

吉野の良さ・魅力・吉野スタイルを知って好きになってもらう情報発信だけでなく、観光関連の施策と連携し、実際に吉野を訪れてもらうための取り組みを推進します。吉野の魅力を肌で感じてもらうことで、「吉野で暮らしてみたい！」と移住に関心をもってもらえる機会をつくります。

(3) 重要業績成果指標（K P I）と主要な取り組み

①定住・移住の促進

重要業績評価指標	基準値				目標値(H31)	
	年度	数 値	単位	算出・引用	数 値	単位
移住体験施設利用数(移住目的)	26	0 組		5組/年	累積 25 組	
空き家バンク物件登録数	26	累積 32 件		10件/年	累積 82 件	
空き家バンク成約件数	26	累積 12 件		3件/年	累積 27 件	
定住促進住宅成約件数	26	0 件				件

主要な取り組み

- 桜、林業だけでなく、深く吉野を知ってもらい移住に関心を持ってもらうため、「吉野の暮らし」の情報発信を行います。
- 移住希望者が吉野の暮らしを体験できる「移住体験施設(三奇楼)」を整備するとともに、定住移住体験ツアーを実施します。
- 定住・移住・交流のワンストップ窓口を開設します。
- 定住・移住・交流を推進するまちづくり団体(上市まちづくりの会リターンズ)やNPOを支援し、連携することで定住・移住を促進します。
- 空き家実態調査を実施し、特定空き屋と共に活用できる物件を掘り起こします。
- 空き家バンクへの登録物件増加に向けた取組を強化すると共に、定住促進住宅の建設や移住者等起業支援、空き家改修費等への助成制度の拡充を行います。
- 地域おこし協力隊制度を積極的に活用します。



②若い世代の転出の抑制・歯止め

重要業績評価指標	基準値				目標値(H31)	
	年度	数 値	単位	算出・引用	数 値	単位
20～34歳の転出者数	26	118 人		住民基本台帳	99 人	

主要な取り組み

- 吉野高校、東京農業大学等との連携を強化し、将来の吉野の産業を支える人財を育成します。〔地域産業の担い手確保と地域人財の養成 再掲〕
- 雇用環境の改善等に向けた取組を進めるとともに、町内企業を周知・PRすることにより町内への就職を促進します。〔地域産業の担い手確保と地域人財の養成 再掲〕
- 安心して暮らせる地域社会を形成する公共交通として、スマイルバスの利便性の向上の向上を図ると共に、近隣町村との連携やデマンド型乗合タクシーを拡充します。
- 家庭・地域・学校の連携を強化し、地域ぐるみで子どもの教育を支援する体制を整備します。〔郷土愛・愛着心の醸成 再掲〕
- 郷土に誇りと愛着を持つひとづくり「ふるさと教育」を推進するとともに、こども園・小中学校の教員はもとより、保護者を対象に吉野の歴史・文化を学ぶ研修会を開催します。〔郷土愛・愛着心の醸成 再掲〕

- みんなが集える、みんなで繋がる本のある空間づくりを進め、みんなで手づくりのとしょかんを開設します。〔安心して子育てできる環境整備 再掲〕

③企業等における採用・就労の拡大

重要業績評価指標	基準値				目標値(H31)	
	年度	数 値	単位	算出・引用	数 値	単位
移住者の起業件数	26	0 件		1件/年	累積	5 件
新分野進出による雇用者数	26	0 人		3件×2人	累計	6 人

主 要 な 取 り 組 み

- 新規起業者、既存企業等の新分野進出・新商品開発・販路開拓への支援を行います。

〔地場産業関連産業の起業・創業支援による地域経済の発展 再掲〕

- 事業・雇用拡大につながる知識等を取得する研修会やセミナー等を開催するとともに専門家を派遣します。〔地域資源の発掘・研ぎによる地域経済の活性化 再掲〕

- 空き店舗を活用した新規出店やチャレンジショップ等の運営を支援します。

〔地場産業関連産業の起業・創業支援による地域経済の発展 再掲〕

④交流人口の拡大

重要業績評価指標	基準値				目標値(H31)	
	年度	数 値	単位	算出・引用	数 値	単位
各種イベント誘致による来訪者数	26	0 人		町調べ		人
定住移住体験ツアー参加者数	26	0 人		20人/年	累計	100 人

主 要 な 取 り 組 み

- 町内での各種イベント開催の誘致を行います。

- 移住希望者が吉野の暮らしを体験できる「移住体験施設(三奇楼)」を整備するとともに、定住移住体験ツアーを実施します。〔定住・移住の促進 再掲〕

- 地域が一体となった戦略的な観光地づくりを推進します。

〔基幹産業の強化による地域経済の活性化 再掲〕

- 広域観光を推進します。〔基幹産業の強化による地域経済の活性化 再掲〕

- おもてなしの心の醸成と、外国人観光客受け入れ体制を強化します。

〔基幹産業の強化による地域経済の活性化 再掲〕



基本目標③ 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる

(1) 基本目標

吉野の豊かな自然環境の中で、安心して子どもを**生**み、育てることのできる環境を整備し、若い世代から「吉野で子どもを**生**み・育てたい!」と、住む場所として選んでもらえるまちづくりを進めます。

5年後の目標	基準値				目標値(H31)	
	年度	数 値	単位	算出・引用	数 値	単位
合計特殊出生率※	22	1.1		人口動態保育所・市町村統計	1.29	人
30～34歳の有配偶者率(男性)	22	37.3	%	国政調査	50.0	%
30～34歳の有配偶者率(女性)	22	39.9	%	国政調査	50.0	%
出生数	26	24	人	住民基本台帳	30以上	人

※1人の女性が生涯に産む子どもの数の推計値

(2) 講ずべき施策の基本方針

①安心して子育てできる環境整備

安心して子育てができるよう、地域や関係機関等と連携し、地域ぐるみで子どもを見守り、子育てを支える環境づくりを進めるとともに、子育て世帯が求めるきめ細かな情報発信を行います。また、安心して学べる・遊べる・**集える**環境の整備を行います。

②結婚・出産・子育て支援の充実

若い世代が吉野で、安心して子どもを生み育てることができるよう、切れ目のない支援サービスの充実を図るとともに、子育て世帯の経済的な負担軽減施策を充実します。



③子育てと仕事の両立支援

子どもの成長などの環境の変化に伴う、子育て中のお母さんの就労、保育ニーズに対応するため、**こども園**・学童保育の運営の充実を行うとともに、雇用施策と連携し、安定した雇用の確保を図るとともに、働き方・生き方など自分の希望を実現し、女性が暮らしやすいまちづくりを推進します。

(3) 重要業績成果指標 (KPI) と主要な取り組み

①安心して子育てできる環境整備

重要業績評価指標	基準値				目標値(H31)	
	年度	数 値	単位	算出・引用	数 値	単位
子育てサポーター数	26	37	人	町調べ	45	人
手づくりのとしょかん設置数	27	2	箇所	町調べ	7	箇所

主 要 な 取 り 組 み

○子育てに関する相談・指導の充実を図るとともに、子育てサポーターの育成や研修を行います。

○親と子どもが集える、お話し会や人形劇、文庫活動などの活性化を図ります。

○子育て世帯が求めるきめ細かな情報発信ポータルサイトを構築し、内容の充実に努めます。

○吉野の未来を担う子ども達の「学力向上」「人間関係力の育成」など、質の高い教育の提供を目指した「小中一環教育」を推進します。



○みんなが集える、みんなで繋がる本のある空間づくりを進め、みんなで手づくりのとしょかんを開設します。

○子どもから大人まで木とふれあい、木に学び、木と生きる「木育・遊育」を推進します。〔基幹産業の強化による地域経済の活性化 再掲〕

②結婚・出産・子育て支援の充実

重要業績評価指標	基準値				目標値(H31)	
	年度	数 値	単位	算出・引用	数 値	単位
町内での恋活・婚活開催回数	26	1	回	社協・町主催 (3回/年)	累計 15	回
3人目以降を出産した人の数	26	6	人	住民基本台帳		人
年少人口の割合	22	7.3	%	国勢調査	7.3	%

主要な取り組み

○有配偶者率の上昇、晩婚化防止策として、未婚の男女への出会いの場の提供、「恋活」「婚活」開催への支援を行います。

○交際術やマナーなどを学ぶセミナーや講座を開催します。

○県や奈良県南部の市町村と連携し、南和地域の周産期医療体制、小児医療体制の充実を図ります。

○乳幼児健診及び各種健康相談の充実を行います。

○町独自の子育て世帯への、経済的な負担軽減施策を継続実施するとともに、多子世帯の経済的負担軽減施策の充実を行います。

③子育てと仕事の両立支援

重要業績評価指標	基準値				目標値(H31)	
	年度	数 値	単位	算出・引用	数 値	単位
セミナー等開催回数(再掲)	26	1	回	4回/年	累計 20	回
待機児童数	26	0	人		0	人

主要な取り組み

○子育て世代の多様なニーズに対応した保育サービスや放課後の学びの場を充実します。

○女性のための就業継続講座、再就職セミナーの開催や、事業所・地域における理解を深めるための啓発を行い女性の活躍に向けた気運の醸成を行います。

○お母さんが働ける・活動できる居場所づくりを推進します。

○雇用環境の改善等に向けた取組を進めるとともに、町内企業を周知・PRすることにより町内への就職を促進します。〔地域産業の担い手確保と地域人財の養成 再掲〕

基本目標④ 地域のなかで安心して暮らし続けることができるまちづくり

(1) 基本目標

吉野町まちづくり基本条例の基本理念に基づいたまちづくりを進め、誰もが安全・安心に暮らし続けることができるまちづくりを進めます。また、地域と一体となり、吉野の未来を担う子ども達が地域に愛着心を持てるように育てます。

5年後の目標	基準値				目標値(H31)	
	年度	数 値	単位	算出・引用	数 値	単位
自主防災組織率	27	96.5	%	県調査	96.5	%
町内会・自治会活動への参加率	27	50.6	%	町民アンケート	70.0	%
NPOやボランティア活動への参加率	27	14.7	%	町民アンケート	25.0	%
地域のイベントや行事への参加	27	51.2	%	町民アンケート	70.0	%
近所の高齢者や障がい者の見守度	27	68.1	%	町民アンケート	80.0	%

(2) 講ずべき施策の基本方針

①みんなで支え合い安心して暮らせる地域社会の形成

本町の人口減少は今後も、避けがたいものとなっています。人口減少下において、暮らしの基盤となる地域コミュニティを維持していくためには、これまで以上に日常における人と人とのつながりを確かなものとして、未来へつなぐ必要があります。地域コミュニティの組織力を強化し、地域の絆を活かした地域住民同士で支え合う持続可能なまちづくりを推進します。

②いきいきと暮らすことができる健康長寿社会の形成

NPO、ボランティア団体、保健、医療等の連携のもと、高齢者の方が生涯にわたり、健康でいきいきとした生活が送れるようスポーツやお話会等を通じて多世代で交流できる取り組みを推進します。また、高齢者の方がこれまで培ってきた知恵や経験を地域の様々な分野に生かすことできる取組を推進します。

多世代交流

③地域における女性の活躍推進

子ども・子育て支援、雇用施策と連携し、すべての女性が**感性と能力を十分に発揮し、自らの希望を実現できる**「女性が輝く地域づくり」を目指します。女性が暮らしやすいまち「吉野」実現により、女性の人口流出の歯止め、転入人口の増加を目指します。

④郷土愛・愛着心の醸成

先人が築き、継承してきた歴史、伝統文化・産業、自然環境を次世代に引き継ぐ郷土愛を醸成すると共に、未来を担う子どもたちを地域が一体となって愛着心を持つよう育むひとづくりを推進します。

(3) 重要業績成果指標 (K P I) と主要な取り組み

① みんなで支え合い安心して暮らせる地域社会の形成

重要業績評価指標	基準値				目標値 (H31)	
	年度	数 値	単位	算出・引用	数 値	単位
自治協議会の組織率	26	0.0	%	全8地区	50.0	%
地域づくり計画策定率	26	0.0	%	全6地区	100.0	%
地区防災計画策定率	26	0.0	%	全6地区	100.0	%

主要な取り組み

- 自治協議会の組織化や地域における人財育成等により地域コミュニティの組織力強化を図ります。
- 地域における防災体制を強化するため、自主防災組織の活動の充実と地区防災計画策定に向けた支援を行います。
- 安心して暮らせる地域社会を形成する公共交通として、スマイルバスの利便性を向上します。
- 子どもから高齢者まで多世代が集い語り合える地域の憩いの場を形成します。
- 障がいの有無にかかわらず、誰もが安心して暮らせるよう地域での交流・支え合い活動を推進します。また、障がいのある方への相談窓口の周知や適切な障害福祉サービスを受受できるよう努めると共に、自立した生活を送れるよう就労等についての支援をします。
- 地域のコミュニティの場として、地域と商店街の一体的な活性化を図ります。

② いきいきと暮らすことができる健康長寿社会の形成

重要業績評価指標	基準値				目標値 (H31)	
	年度	数 値	単位	算出・引用	数 値	単位
まちの語り部認定者数	26		人			人
シニア I T 指導員認定者数	26		人			人
認知症サポーター数	27	1,290	人		1,590	人
吉野運動公園利用者数	26	88,760	人		90,000	人
県内の健康長寿の順位	27	男20・女23	位	県65歳からの健康寿命		位

主要な取り組み

- 地域の昔話・歴史・文化・産業を次世代に受け継ぐまちの語り部を養成します。
- I C T を活用した、高齢者への情報受発信による社会参加、生きがいを支援します。
- スポーツやお話会等を通じて多世代で交流できる取り組みを推進します。
- 住み慣れた地域でいきいきと暮らし続けることができる地域包括ケアシステムを構築します。
- 人生を楽しく生き生きと過ごすことができるよう、高齢者の生きがいづくりや、シルバー「恋活」「婚活」、「終活」講習会を開催します。



③地域における女性の活躍推進

重要業績評価指標	基準値				目標値(H31)	
	年度	数 値	単位	算出・引用	数 値	単位
女性の起業・創業・再就職者数	26	—	人		累計 10	人
セミナー等開催回数	26	1	回	4回/年	累計 20	回
セミナー等参加者数	26	9	人	10人/年	累計 50	人
女性消防団活動回数	27	0	回	6回/年	累計 30	回

主要な取り組み

- 子ども・子育て支援施策と連携し、仕事と子育てが両立できる環境の充実を図るとともに、女性の活躍に向けた気運の醸成を行います。
- 地域で活躍したい、起業したい等、女性の希望を叶える相談窓口の開設や、起業・創業、(再)就職に向けたセミナー等を開催します。
- 一人暮らしの高齢者宅の防火訪問、事業所への啓発、子どもへのPR、地域での啓発など、女性の感性を生かした、女性消防団員の活動を推進します。
- 吉野高校木工女子部との連携により、地場産業のPR、商品開発等を行います。

④郷土愛・愛着心の醸成

重要業績評価指標	基準値				目標値(H31)	
	年度	数 値	単位	算出・引用	数 値	単位
親子吉野発見教室の開催数	27	0	回	座学・現研各2回/年	16	回
中学生のまちへの愛着度 (今後も吉野町で暮らしたいか)	27	19.7	%	中学生アンケート	30.0	%

主要な取り組み

- 家庭・地域・学校の連携を強化し、地域ぐるみで子どもの教育を支援する体制を整備します。
- 郷土に誇りと愛着を持つひとづくり「ふるさと教育」を推進するとともに、こども園・小中学校の教員はもとより、保護者を対象に吉野の歴史・文化を学ぶ研修会を開催します。
- 親子で吉野の魅力を再認識できる取り組みを推進します。
- 五感六育事業を推進します。
- 地域の昔話・歴史・文化・産業を次世代に受け継ぐまちの語り部を養成します。
[いきいきと暮らすことができる健康長寿社会の形成 再掲]
- 「まちの語り部」が講師となる地域の歴史・文化講座を開催します。

